

585人が健脚競う



ゴールまであと一息

第21回緑水湖健康マラソン大会（主催 南部町緑水湖健康マラソン大会実行委員会）が10月19日、緑水湖周辺で開かれました。

ウォーキングや10kmのマラソンなど9コースに1歳から85歳まで585人が参加し、健脚を競いました。1.5kmコースは親子での参加も多く、沿道からの声援に元氣よく応える姿が見られました。走り終わった選手には山菜おにぎりとなめこ汁がふるまわれ、用意された約600食があつという間になくなりました。

秋の恵みを満喫

今年で50年目を迎える秋の山菜会が10月24日、レークサイドアリーナで開かれました。

茸を中心にした秋の恵みを使った天ぷらや鍋、炊き込みご飯など21品を参加者407人が楽しみました。

家族3人で参加された女性は「料理の品数がいっぱいでした。初めて食べる茸など、普段食べられないものが食べられて良かったです。うどの粕漬がおいしかったです」と感想を話されました。



山菜料理を味わう参加者

企業が森林保全に協力



調印書を手にする関係者

西日本高速道路株式会社、西日本高速道路サービス・ホールディングス株式会社と南部町・鳥取県が、10月29日、企業が森林保全に協力する「とっとり共生の森」の協定を結びました。

協定は10年間。鶴田の森林約4.4haで植栽や間伐などの保全が行われ、最初の活動として11月22日には社員や家族による植栽が予定されています。調印式はとっとり花回廊で行われ、平井知事は「企業や行政などの垣根を取り払い、一緒になって環境を守りたい」と挨拶されました。

ゴーヤ募金を寄付

町は10月14日、福祉に役立ててほしいと、南部町社会福祉協議会に7,171円を寄付しました。

このお金は、役場法勝寺庁舎で収穫したゴーヤを、訪れた人に持ち帰ってもらう際に募った寄付金です。ゴーヤは庁舎の日よけ効果を目的に栽培したもの。7月から10月までの緑のカーテンで室温の上昇防止に効果を発揮しました。

寄付を受け取った同協議会の国本さんは「福祉活動に役立たせていただきました。ありがとうございます」と感謝されていました。



寄付を受け取る局長の国本さん(左)